

初期臨床研修は国立長寿医療研究センターで！

みんなで、国立長寿医療研究センターに集まろう

病院長 鳥羽研二



国立長寿医療研究センター(NCGG)は初期研修に最も適した医療機関です。その理由はざっと思いつくだけでもいくつかあります。

1) 初期診断能力の養成に優れています

初期臨床研修で最も必要とされることは、頻度の高い訴えや所見を適切に鑑別診断し、初期治療方針を決定する能力を養うことです。

当センターは、「長寿医療」というイメージから高齢に偏った疾患構成を想像する方も少なくないでしょうが、実際には高齢者を含む地域医療を行っており、幅広い疾患に対応しています。これらの疾患の診察方法を「高齢者を支えるための基本的な心構えと診察方法」として、「診察室に入るところから、診察が始まる」ことをモットーに外来でマンツーマンで教育します。また「患者・家族も診療チームの一員である」という斬新な理念を現実の医療で体験・習得できます。

2) 画像診断能力の養成に優れています

当センターには、核医学、MRI等の診断専門医がおり、画像カンファランス等を通して、画像診断能力を短期間でスキルアップできます。

例えば、循環器科領域での超音波-カテーテル-核医学の一連の読影、認知症におけるMRI- SPECT-PETの一連の解釈など、最先端機器による検査結果が日々第一人者によって分かりやすく説明され、知らないうちに他の医療機関での研修に比べて大きな知識の差ができます。 (次ページに続く)

NCGGでの初期臨床研修

- 地域医療に立脚した幅広い臨床経験
- 高齢者を支える医療のエキスパートによる指導
- 超高齢社会の医療現場で求められるスキルの習得
- 未来の社会に備える最先端の臨床研究に触れ、自らの将来像を描く環境



<病院正面>

(前ページより)

3) 薬物療法のプロになります

当センターは、薬効だけでなく、薬物有害作用のデータ集積に努めています。これらを活かして各診療科では「最大の効果」と「最小の副作用リスク」を両立させる処方の方の組み合わせ、処方の優先順位などを習得できます。

4) 医師人生の選択枝が広がります

医師の人生では多くの因子によって幸福感が決定されます。中でも良質な指導医(メンター)がいること、自分の好みや能力にあった専門性を持つこと、経済的に安定していること、これらは研修医の諸君に共通の必須条件です。当センターはこれらの条件をクリアしていますが、特に指導医には自信があります。

さらに、医師はどの専門を選んでも、学会や研究会で、素晴らしい発表に触れれば、「自分もあんな臨床研究が発表できれば」、「脚光を浴びる研究も悪くない」などと思うことが必ずあります。そんな時、当センターでは、臨床と研究を両立する医師の生き方の手本が、先輩として勤務しており、多様な選択枝が広がります。

5) 無駄を大切に作る人生

私は、酒、遊び、スポーツにも、医学・医療と同等の重要性を人生に見だし、あるときは回り道をして生きてきました。医療は所詮「人をみる仕事」です。まじめ一本槍だけの硬い研究病院といったイメージがあるなら、大きな間違いです。研修期間中に限られた回数でしょうが、大いに楽しみの機会を持ちましょう。

NCGGでの初期臨床研修からはじまるキャリアパス

NCGGでの
初期臨床研修

他機関での
後期臨床研修

NCGGでの
後期臨床研修

大学院での
研究

専門性を生かした社会貢献

- 長寿医療の基本を心に。
- どんな専門領域でも、長寿医療の基本を自信を持って活躍する。
- 「老年医学」を専門分野の選択枝の一つとして持つ。
- 超高齢社会の地域医療におけるリーダーシップ。
- 日本・世界を”With Aging”の立場で捉える。

国立長寿医療研究センターでの研修を勧めます

初期臨床研修医より

当センターの見学及び当センターと日本老年医学会が共催する「老年医学サマーセミナー」に参加し、先生方の講義や熱意に触れるにつれ、高齢者医療の世界に魅力を感じ、当センターを研修先に選びました。

当センターは「研究センター」という名前から、病院としては近寄りやすい面があるのかもしれませんが、実際に見学してみるとその様な心配は全くの的外れでした。高齢者の多くは複数の疾患を抱えていて、かなり進行した状態であることも多いという特徴があります。当センターでは退院後も含めたとぎれない医療を行っています。

さらに、研究の成果を実際の医療に還元することが当センターの最大の特徴と言えます。したがって、医師のみならず研究所に所属する研究者も交えた議論もたびたびです。臨床の場においても研究の視点を忘れない、これこそが僕が当センターに興味を持った大きなきっかけの一つです。

高齢者医療に興味がある、研究の一端を見てみたいなど興味があれば一度見学に来てください。また、老年医学サマーセミナーにも参加してみてください。(三重大学医学部平成22年卒業 松尾 宏)



もの忘れセンターから研究所を望む



医局リサーチカンファランスの様子

国立長寿医療研究センターでの研修について

後期臨床研修医より

当センターの初期臨床研修では、担当の患者さんを5～10人ほど副主治医の形で診療し、ローテートしている科の上級医と相談しながら診察や検査、指示出しをしています。卒後10年目以上のベテラン指導医が直接、臨床研修医を指導していることが殆どです。(月に5コマある)当直時は、救急外来で上級医とともに診療に当たります。症例の難易度により、上級医が全委任～バックアップの度合いを考慮してくれています。

レジデント室に戻ると、研修医の先生が熱心に文献検索をしている姿をしばしば見かけます。私自身、診断や治療に困った時は、病院のパソコンに入っていて、フリーに使える「Up To Date」を頻用しています。当センターでは高齢の患者さんが特に多く、診断にしろ治療にしろ非典型的な問題ばかりで、立ち止まって考え込むことが多いですが、裏を返すとこれからの時代の医療で増えてくる問題に対処するトレーニングであるとも考えられます。皆さんのチャレンジ精神を呼び起こす研修になるでしょう。

(名古屋大学医学部平成18年卒業 武田 淳)



最先端の長寿医療研究に触れながら初期臨床研修を行うことができます。
ここではそのごく一部の例を紹介します。

わが国最大規模のもの忘れセンター

もの忘れセンター外来 櫻井 孝 部長



もの忘れセンターでは、「認知症の予防から終末期まで」をコンセプトに、患者さん、ご家族のあらゆるご心配、ご要望に応えられるよう、人材、環境、ネットワークを整備しています。認知症の診療では、老年内科、神経内科、精神科、放射線科、脳神経外科の医師が、同じもの忘れ外来で働き、最新の検査機器を駆使し、共通のカンファレンスを行って診断や治療の質を向上させています。またコメディカルとの共同作業で認知症の家族教室、地域連携も活動的に行っています。超高齢社会を迎えたわが国では、認知症診療に通じていることはすべての医師にとって必須となっています。私どものもの忘れセンターの初期臨床研修プログラムでは、裾野の広い認知症診療を効果的に習得することができます。皆さん方の積極的な参加をお待ちしています。

認知症の先端的画像診断や治療

脳機能診療部 鷲見幸彦 部長



脳機能診療部では、1)、PETやMRI、SPECTといった画像診断機器を用いた認知症の早期診断や、病型診断の精度向上、2)認知症の新規治療薬の治験、を大きな柱にしています。1)2)とも当センターだけで完結するものではなく、全国あるいは世界と結んだ、連携のコア施設となることを目指しています。また、もの忘れセンターとは強力に連携しており、認知症を中心とした中枢性神経疾患について幅広く研修することができます。

転倒・骨折・骨粗鬆症の予防と治療

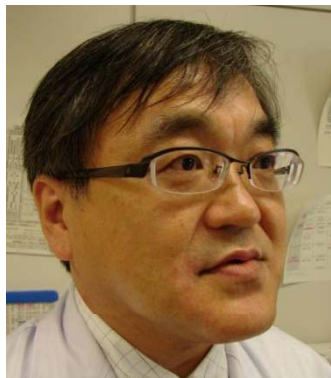
先端診療部 原田 敦 部長



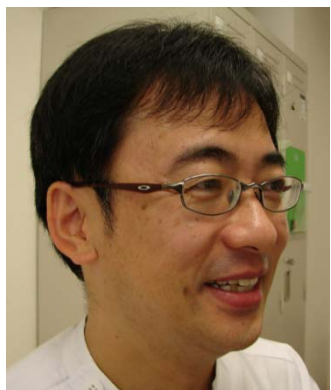
先進的骨折リスク診断として、CTによる有限要素法により3次元骨強度が計算できます。転倒リスクは、DXAで測定する全身筋量を活用して評価しています。骨折に対しては、骨形成を促進する物質を用いた新しい治療を開始しています。さらに、画期的な骨折予防法も開発中です。

わが国の在宅医療を支える

在宅医療推進室 三浦久幸 室長



当センターではわが国の在宅医療発展のために様々なモデル事業、研究を行っています。2009年4月には在宅医療支援病棟を開設し、地域ケアスタッフとの連携のもと、退院後の在宅生活も想定した入院治療を意識して行っています。患者宅への訪問も積極的に行っています。初期臨床研修の段階での在宅医療の経験は非常に重要で、在宅医療の基礎を学ぶには最適の環境となっています。是非、一緒に働き、学びましょう。

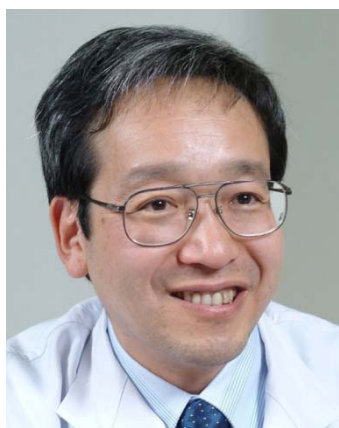


褥瘡のサイエンス

皮膚科 磯貝善蔵 医長

高齢者に発症する「褥瘡」の診療体系の構築のために、現場における褥瘡の諸問題を生化学的、医療工学的、薬理的に解決するべく研究しています。その結果を患者さんに還元した褥瘡診療を提供しています。合い言葉は「from Bedsore to Bench」です。

注) Bedsore = 褥瘡のこと

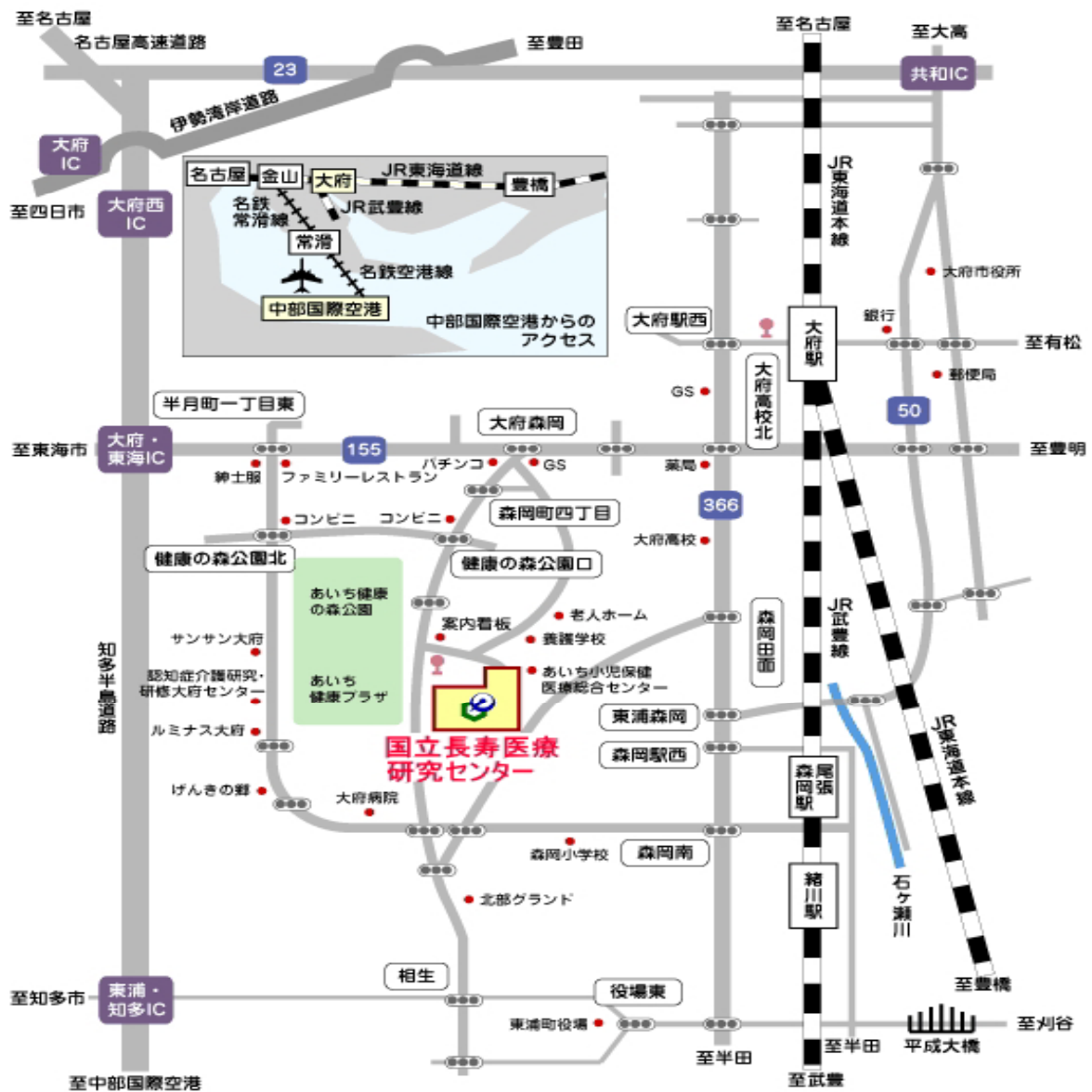


口腔ケア、新しい装置の開発

歯科口腔外科 角 保徳 医長

高齢者医療では医師にも口腔の知識は必須となります。当センターでは高齢者や要介護者の口腔ケア・口腔管理を実際の臨床の現場で見学、実習を行います。

日本発世界初の製品化を目指しているOCT画像診断機器も実際に使用することができます。



 国立長寿医療研究センター 〒474-8511 愛知県大府市森岡町源吾35 TEL (0562)46-2311	 JR名古屋駅から JR東海道線(上り)「大府駅」下車
	 中部国際空港(セントレア)から 名鉄常滑線「金山駅」下車、 JR東海道線(上り)乗りかえ「大府駅」下車

《問い合わせ先》

独立行政法人 国立長寿医療研究センター
 0562-46-2311(代)
 人事課

《ホームページ》

<http://www.ncgg.go.jp/>
 研修医・レジデント募集要領はこちらから。